



主幹形整枝のミカン樹
(右下は「石地」)



オレンジ風味の広島果研11号

広島ミカンのブランド化を支援する研究開発

広島県には約3,000haのミカン園がある。県産ミカンは近年販売に苦戦しているが、その中で広島生まれの「石地」だけは、他のミカンに比べ約1.6倍の価格で、好調な販売を維持してきた。

しかし「石地」は、品質は高いが生産が不安定であるため、栽培面積は現在182haであり、目標の500haを大きく下回っている。

「石地」のさらなる生産拡大を支援し、広島ミカンの柱としての石地ブランドを定着させるため、平成18年度からは、『温州ミカン「石地」の早期多収を目指す主幹形栽培技術の確立』に取り組む計画である。

また、消費者の嗜好が多様化している中で、新たな広島のブランドづくりを提案できる新品種

の育成にも力を入れている。本年度は9月に収穫できる品質の良い極早生ミカン「広島果研7号」に加え、12月の贈答用として期待でき、さわやかなオレンジ風味の「広島果研11号」が種苗登録された。さらに、紅が濃くて濃厚な食味の新たな中晩柑品種と減酸の早いデコポン新系統を登録申請する予定である。

高齢化や担い手確保のために、省力・軽作業・低コスト栽培技術の確立や、環境保全を目指した病害虫防除や土壌管理技術の確立を併せて行い、園地での管理技術の改善にも力を注いでいる。

これらの研究成果は、新技術セミナー等の実施により迅速に生産現場に技術移転したい。

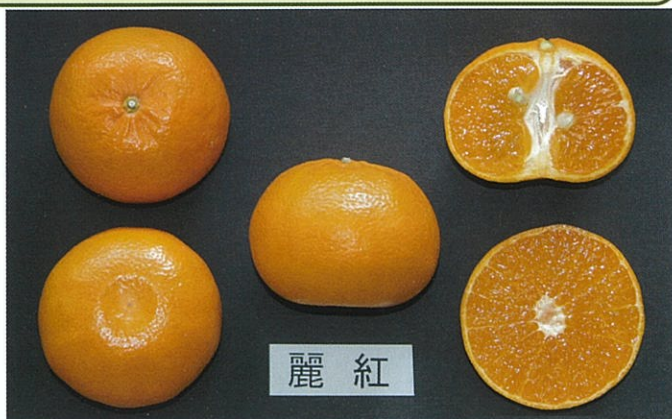
常緑果樹研究室長 新田浩通

果皮の紅が濃く、食味が良好なカンキツ新品種「麗紅」

「麗紅（れいこう）」は、(独)農研機構・果樹研究所が育成したカンキツ新品種で1月下旬に成熟し、紅が濃く芳香があり、糖度が高い新品種です（平成17年12月品種登録）。

主な特徴は次のとおりです。

- ① 「麗紅」は、KE5（清見×アンコール）にマーコットを交配して育成された品種です。
- ② 果実は扁平で200g前後です。
- ③ 果皮は濃い橙色で剥きやすく、浮き皮はほとんど発生しません。
- ④ じょうのう膜はやや硬いが、果汁は多く糖度は12～13%です。
- ⑤ 周囲の園地に花粉のある品種があると、種子が入りやすくなります。
- ⑥ 貯蔵性は良好です。 (柑橘研究室)



「麗紅」の年次別果実形質(果樹研究所柑橘研究室)

年次 (年産)	1果重 (g)	果形 指数	糖度 (Brix)	酸度 (g/100g)	調査日 (年/月/日)
2004年	197	137	11.7	0.95	2005/2/10
2003年	163	143	13.7	0.99	2004/1/30
2002年	170	136	13.0	1.22	2003/1/14
2001年	248	132	11.4	1.15	2002/1/21
2000年	182	150	11.9	1.07	2001/1/13
平均	192	139	12.3	1.08	—

注) 果形指数: 横径÷縦径×100

カンキツ類のウイルス性病害感染防止マニュアルを作成

ウイルスやウイロイドは一度感染すると治療は難しいので、栄養繁殖性作物のカンキツではこれらの感染防止が重要です。本県で確認されているのはウイルス3種とウイロイド8種です。これらに感染すると、その影響は緩慢に進行し、果実の品質低下を招いたり安定生産の妨げになることが懸念されています。

そこで、ウイルスやウイロイドの感染防止策、県内の罹病実態および検定法についてまとめた対策マニュアル「カンキツのウイルス、ウイロイド病を防ぐために（平成17年3月）」を作成しました。今後、新技術セミナーによる啓発活動等ウイルス性病害の感染防止に役立てます。

(生物工学研究部)



ウイルス、ウイロイド 保有樹
ウイルス、ウイロイド 非保有樹
ウイルス、ウイロイドの感染による影響（不知火）



対策マニュアル

ランプ（LAMP）法によるトマト黄化えそウイルス（TSWV）の高精度診断

本県では、媒介虫ミカンキイロアザミウマの分布拡大に伴い、キクを始め各種作物で黄化えそウイルス（TSWV）の被害が発生しています。TSWVの診断には、ウイルス抗体を用いたエライサ法が行われていますが、検定に特殊な機材や時間（約2日）を要します。ランプ法は日本で開発された新しい遺伝子増幅技術で、高い特異性と迅速性（約1時間）から、病原体の検出に利用され始めています。

TSWVの感染した植物のキク、トマト、ピーマンからランプ法でTSWVが検出できますが、健全作物や本ウイルスに近縁のウイルスからは誤診断はありませんでした。ランプ法の検出感度はエライサ法よりも約10倍高く、将来、種々の農作物からランプ法によって短時間にTSWVの正確な診断が可能になるでしょう。

（環境制御研究部）



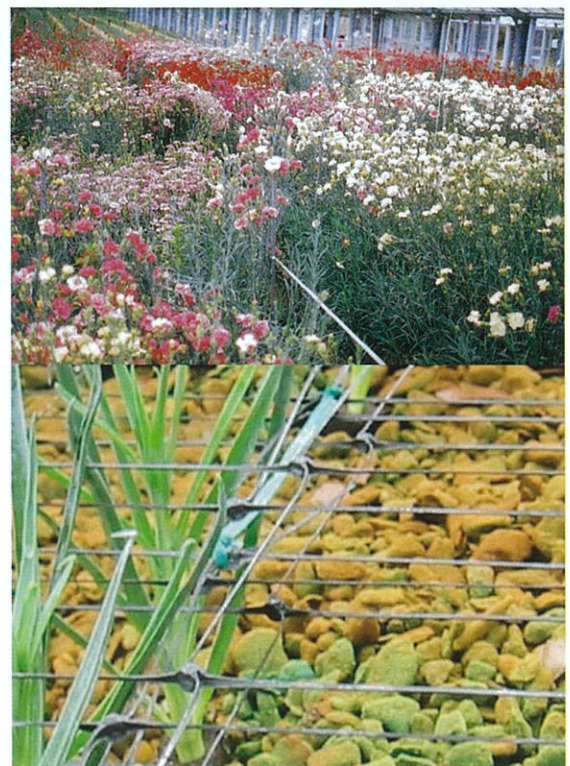
ランプ法によるTSWVの検出
（右の白濁したほうが感染葉を示す）

ロックウール代替培地を用いたスプレーカーネーションの養液栽培

スプレーカーネーションの栽培では、土作りのために植え替え時に堆肥を投入します。このとき、多大な労力を必要とします。一部の生産者は軽労化できるロックウールを培地に用いていますが、この培地は使用後の廃棄が問題となります。

そこで、ロックウール代替人工培地について検討しました。培地にはパーライトとピートモスを4:1で混合したもの、あるいはフェノール発泡樹脂を用います。灌水はタイマーで制御し、点滴チューブで培養液を施与します。これら人工培地でのスプレーカーネーションの収量および品質は、従来の土耕栽培と同等でした。植え替え時には培地の減量分のみを補充するだけですみます。また、人工培地では、植え替え前の蒸気消毒も土に比べて熱の伝導が早いので短時間で終了します。さらに、人工培地では植え替えを行わない2年据え置き栽培も可能です。

（花き栽培研究部）



フェノール発泡樹脂培地によるベンチ栽培

農産物種子の貯蔵施設「農業ジーンバンク」を紹介します

(財)広島県農林振興センター農業ジーンバンクは、遺伝資源の保存と利用を目的に平成元年に設立されました。貯蔵種子点数は約18,000(稲類:7,600, 麦類:2,900, 豆類:1,600, 雑穀・特用作物:1,000, 飼料作物:2,400, 野菜類:2,500等)です。研究機関以外での昨年度の利用点数は豆類, 野菜類を中心に207点でした。今後も積極的にご活用ください(Tel & Fax 082-429-2599)。

◆ジーンバンクで保存している特長のある品種(15)-大粒小豆「京都大納言」-

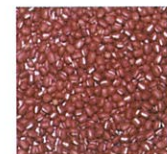
「京都大納言」は「丹波大納言」などと並んで100粒重は20gを超える大型の小豆である。農業ジーンバンクには「大納言」と名のつく小豆が十数品種保存されているが、庄原市比和町の農家から頂いた品種が最も大粒で、100粒重が25gもある。「京都大納言」は100粒重が21gであるが、普通の品種が10~18gであるのに比べれば大きく立派である。

東広島市での播種適期は7月の上~中旬でその場合の開花期は8月下旬, 収穫期は10月下旬となる。草丈80cm, 分枝数6~7本と普通の品種より晩生で大きくなるため, 畝幅を80~90cmとやや広くする。ウイルス病には中~強だが, 乾燥期のハダニ類と開花期以降のカメムシ類・フキノメイガの防除には十分留意する。収量は高く, また, 大粒種であるため, 硬実率が低く品質は良い。

(広島県農林振興センター技術嘱託員: 船越建明)



京都大納言



普通大納言

◆農業技術センター第37回研究成果発表会を開催します (昨年より1ヵ月早期に開催です)

- 日 時:平成18年2月8日(水)10:00~15:30 ●場 所:農業技術センター講堂
- 内 容:『「効率, 快適」な農作業を目指して』をテーマとして, 研究成果の発表と工業等の異分野パネリストとのシンポジウムを行います。

◆第2回県立試験研究機関合同研究開発・成果発表会を開催します

- 日 時:平成18年2月1日(水)13:00~16:30 ●場 所:鯉城会館5階(サファイア, ルビー)
- 内 容:『循環型社会への対応』をテーマとして, 研究成果の口頭発表とポスター発表を行います。

◆新技術セミナーを開催しました

セミナー名	場 所	と き	参加者数	内 容
トルコギキョウ栽培研究会	東広島市八本松町	10月14日	53名	種子冷水浸漬処理による開花促進技術と品種葉先枯れ症の要因と防止方法
「石地」と主幹形整枝技術	竹原市忠海町	11月17日	45名	温州ミカン「石地」の栽培特性 傾斜地における主幹形整枝技術
水耕ネギ新栽培技術	東広島市八本松町	11月18日	82名	トレイシステムによる水耕ネギ栽培 水耕ネギの定植・収穫作業の評価と器具開発 水耕ネギハウスの夏冬の栽培環境
「広島果研11号」品種特性	三原市木原町	11月29日	33名	品種特性と結実状況
ダイカンドラの特徴・栽培法	東広島市安芸津町	12月16日	21名	栽培特性及び生育状況・導入効果

◆ようこそ農業技術センターへ (10~12月の来所者紹介)

- ◎10月11日:広島市楠那小学校5・6年134名が自然体験活動として稲刈りに来られました。
- ◎10月28日:高知市農業基幹営農者会議・JA高知市青壮年部20名がシーソー方式のイチゴ生産システムとハウレンソウの不耕起連続栽培を研修されました
- ◎11月22日:佐賀県唐津市農業委員会25名がイチゴを中心に野菜と花について見学されました。
- ◎11月30日:宮崎県三股町年金受給者協議会24名が野菜・花き栽培について研修されました。
- ◎12月16日:JA呉野菜開発審議会15名が野菜を中心に研修されました。

※視察・見学等は随時, 全所で受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

農業技術センターだより No.81 平成18年1月1日

〒739-0151 東広島市八本松町原6869
Tel 082-429-0521 Fax 082-429-0551
果樹研究所 Tel 0846-45-1225
柑橘研究室 Tel 0848-68-0131

発行 広島県立農業技術センター

<http://www.arc.f-net.naka.hiroshima.jp/>
e-mail: ngckikaku@pref.hiroshima.jp